



「子どもたちに公共交通への関心をどう高めたらいいか」

玉川大学教育学部教授 寺本 潔

自家用車を利用して家族で移動する機会が多い現代っ子は、案外バスや電車に乗った経験が少ない。しかし、電車やバスの車両には案外と関心を抱いている。例えば、バスに吊革があり、高齢者優先座席があること、バスカードで即座に支払えること、運転手さんが車内の安全に気をつけて発する言葉、エアコンが効いている車内、後ろの座席はやや高まりがあり、見晴らしがいいことなどである。

これらの既習知識をゆさぶる発問がある。20年以上前に小学2年生向けに行われた有田和正（当時、筑波大学附属小学校教諭）氏による「バスのうんてんしゅ」を扱った有名な社会科授業である。名人の授業であるため、ビデオがある。久しぶりに視聴してみると、面白いことが分かった。有田氏の第一発問は、「バスについて皆さんは良く知っているようですね、ならば問題を出しますよ。バスにはタイヤはいくつ付いていますか？」というものであった。子どもたちからは、「4つ、6つ、8つ」の3案が飛び出してきた。結局、答えが見つからず、有田氏からは「分からないことが分かったね。」というハテナ(?)の文字を大きく板書されることで落ち着いた。子どもたちは実に悔しそうであった。案外見ていないものである。

公共交通という題材に関しても、同じことが言える。身近な問題であるため、自分に引き寄せて考えていない。公共交通を選ぶことが大きなメリットを自分たち市民にもたらす事実に向ける授業を有田氏のような「ゆさぶる」発問で創っていきたい。